思いやりの
地産地消。

つながり ささえあう みんなの地域づくり

歳末たすけあい運動

毎年12月1日⇒12月31日

募金のご協力をおねがいします

https://www.akaihane.or.jp/

歳末たすけあい運動

100%

杉並区のために
大切に使われています

ひとつは「地域福祉活動費助成金」です。これは福祉のニーズに対応するために行われる、住民団体やボランティアグループ等が主体となって進めるインフォーマルな地域福祉活動への助成です。毎年約20団体からの相談・申請を受け、審査の上助成を行っています。
もうひとつは杉並区社会福祉協議会（以下、杉並社協）が推進する住民主体による「地域福祉活動推進事業」です。地域福祉活動推進事業を行う中で見つけた課題、また区民の皆さまからの生の声を聞きながら「地域に今何が必要なのか」を考え、取り組む際の財源になっています。

思いやりの地産地消

地域福祉活動費助成金

※令和3年度時

上限50万円／1事業

- 新規活動の立ち上げ
- 先駆的活動

上限20万円／1事業

- 既存の活動を活性化するための事業

たくさんの声を！

私たちの手で
ささえあいの杉並に

- 長引く新型コロナ感染症で人とかかわる機会が少なくなり、不安や課題を抱えていても相談できずに孤立してしまう方々への支援です。「応援パック（食料の詰め合わせ等）」をツールとして、訪問することで声をかけやすくすることが目的です。

- 地域の方々が運営しふれあい、交流する場です。お話をしたり、情報交換をしたり、趣味の活動をしたりして、地域の方々の輪が広がり、支え合える関係ができることが期待されています。

- ボランティア学習や福祉教育を行う際に使用する高齢者模擬体験セット、体験用車いすなどを整備します。こちらの体験セットは貸し出しも可能です。また幅広い世代の区民を対象とした講座を開催します。

地域福祉活動推進事業

※これまでに行っている事業、行う予定の事業

歳末たすけあい運動　活用例 1

（杉並区の団体への助成「地域福祉活動費助成金」）

社会福祉法人聖友ホーム

「すぎなみ里親プロジェクト」

社会福祉法人聖友ホームはどんな施設?

虐待を受ける等何らかの事情により、実親による養育が困難で、公的な責任として社会的養護を必要とする子どもが、全国には４万２千人います。その内都内では約４千人の子どもが、児童養護施設や乳児院、養育家庭などで暮らしています。

聖友ホームは、乳児院と児童養護施設、二つの施設を運営しており、1923 年 11 月に産院を創設したのが始まりで、来年で 100 年を迎える社会福祉法人です。

現在の建物は、1987 年に建てられ、今日まで子どもたちの生活の拠点となってきましたが、建物の老朽化に伴い、乳児院と児童養護施設を合築する新たな建物に生まれ変わります。建て替わる施設は、地域に密着した施設となるだけでなく、国の示す新しい社会的養育ビジョンの方針に沿い、高機能化・多機能化を目指し、2025 年完成を予定しています。

募金はどのように活用されているの?

現在、聖友ホームには里親支援に携わる職員が３人いるという強みを活かし、地域に根ざした里親の普及啓発をしたいという思いから、2019 年度より里親普及啓発のイベントを行ってきました。2020 年度、地域福祉活動費助成金をいただき「すぎなみ里親プロジェクト」をスタート。助成金をいただき活用することで、イベントの充実を図ることができました。全国に渡り里親支援をされている方からも、私たちの取り組みには注目してもらえています。

コロナ禍では、対面のイベントは断念をせざるを得ない状況が続いていますが、オンラインイベントを実施し、オンラインならではの良さも感じる機会ともなりました。

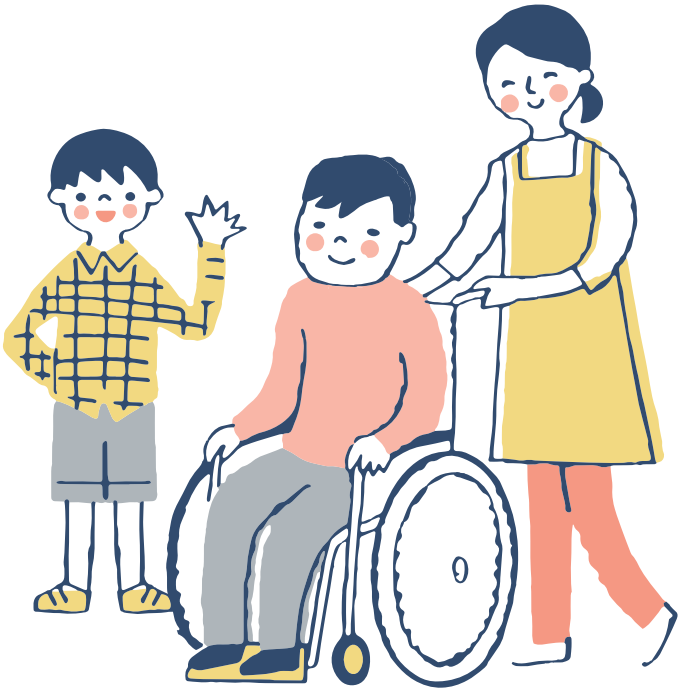
地域の皆さまへメッセージ

社会福祉法人聖友ホームとして、この土地で長らく地域の皆様には、サポートをいただきながら施設の運営に努めております。いつも温かいご支援をありがとうございます。里親制度を大勢の方に知ってもらうこと、興味を持ってもらうことが里親支援の第一歩だと考えています。すぎなみ里親プロジェクトでは、今後も里親制度について気軽に知ることのできる場やイベント実施等、助成金を活用して充実を図りたいと思います。

歳末たすけあい運動　活用例 ②

（杉並区社会福祉協議会が行う「地域福祉活動推進事業」）

杉並ボランティアセンター



すぎなみの子どもたちに福祉の芽を。

地域に暮らす全ての人がお互いに認め合い、尊重し、その人らしい生活を送ることができる未来を目指し、「福祉学習授業」を区内の学校等で行っています。福祉学習を通し、周りの人を知って理解することや、周りの人を思いやる心を育てることを目指しています。

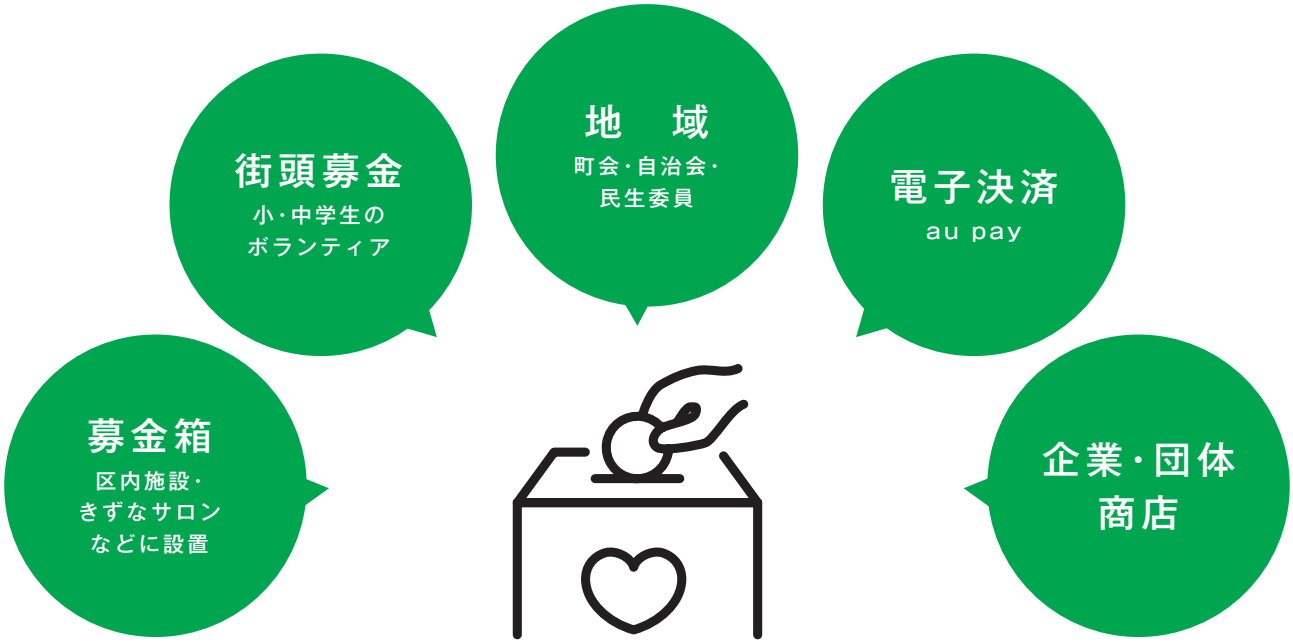
授業を行う際に、体験講座に使っていただくため、福祉体験用具や車いすを購入し貸し出しをしています。一人ひとりの生活を知り、様々な人の強みに気づくことや、思いに共感し、そして、自分の生活の中で周りの人たちに対して、どのようなことができるかを考え、行動できるような、そんなきっかけを提供しています。

福祉学習は「福祉の種まき」と例えられます。福祉学習を受けた皆さんの種が、いつか芽が出て大きな花が咲き、実をつけ、その花の種をまき……。こうして、たくさんの方が豊かな生活を送れるように、歳末たすけあい運動の募金を福祉教育に使わせていただいています。

〈小学校での「車いす体験授業」の様子〉

杉並区らしい使い方

杉並社協のさまざまな事業を通して、今どのような地域課題があるのかを横断的に把握し、それを踏まえて杉並区にとって何が必要なのかを考えます。配分が適切かどうかは町会・自治会をはじめとする地域の方々や、民生委員・児童委員等からなる「配分推せん委員会」で確認し、決定されます。
また配分金の使いみちの1つである杉並区内の団体への助成は「地域福祉活動費助成審査会」で助成配分などを審査します。



募金は皆さんの協力で集められます

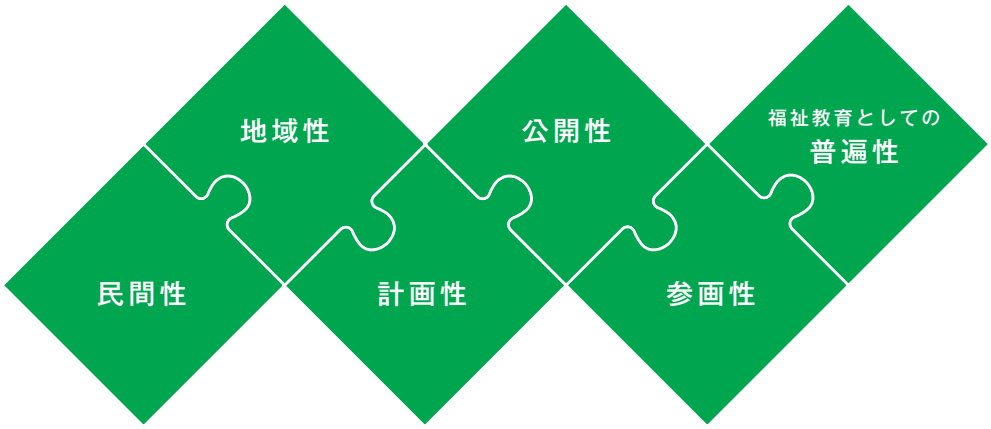
毎年暮れが来ると「歳末たすけあい募金」の時期が来ます。この募金の歴史は古く、昭和の一桁の時代から実施していたと聞きます。私のところは前会長から引き継ぎ40年以上「各戸募金活動」を続けている町会です。近々2年はコロナ蔓延防止の為、「各戸募金活動」を続けることに可否が問われましたがそのまま現行制度を変えずに募金を実施しましたところ、何事もなく無事に募金活動が出来ました。国をはじめ、地方行政まで福祉政策が目玉になるくらいの世情の中、かゆいところに手が届かない部分が多々あります。それを微力ですが助ける活動が募金活動と思っています。全区の各種団体、各企業、各町会、個人の方等からの募金と中学生による駅前街頭募金で賄われ区民1人ひとりの協力があってこそ毎年大きな募金額が集まります。奨励ポスターやTVでの啓蒙活動を見て、ひとりでも多くに皆さんに募金の趣旨をご理解頂きご協力をお願い申し上げます。
今年は貴方も私も募金をしてみよっと…。

西田町会　堤会長

平成10年から23年間、毎年12月1日と2日に都営丸ノ内線新高円寺駅の南北の出口で行っています。12月という寒い時期ですが、朝9時から夜7時まで約80名の町会員が協力しています。
街頭募金は募金を集めるだけでなく、会員同士や募金をくださった地域の方とコミュニケーションがとれる大切な機会と考えています。歳末たすけあい運動は、社協の事業を通して、広く地域福祉に活用されます。「歳末たすけあい運動」という名前から「お困りの方に対して、集められた募金からお金をお渡ししているんですか?」と聞かれることが多々あります。直接お金をお渡しするような方法はとられていませんが、きずなサロンや福祉教育、区内で活動する地域福祉団体への助成等に活用され、結果として福祉的にお困りの方への支えにつながっています。
私たちの活動が誰かの支えになると信じて、これからも可能な限り続けていきたいと考えています。

梅里一丁目町会　江口会長

共同募金6つの原則



じぶんの町を良くするしくみ

歳末たすけあい運動

年の瀬である12月、街やメディアなどで「歳末たすけあい運動」の文字を目にしたことがある方も多いと思います。
「どうして歳末なんだろう?」「なんのために使われる募金?」「言葉は耳にするけれど、よくわからない…。」
「歳末たすけあい運動」は一体どのようなものなのでしょうか。
その歴史は長く、明治時代後期まで遡ります。当時は「募金」というかたちではなく、貧困家庭を慰問する活動として始まったそうです。昭和初期頃から戦後にかけて、全国各地の民生委員(戦前は、方面委員)などが中心となり、地域内での義援金品の配布や金品の持ち寄り運動として行われました。「人々がささえあえる活動を」というかたちで発展し、昭和27年に「歳末たすけあい運動」としてスタートしたのです。
現在では、すべての人が地域で安心して暮らすことができるよう、その地域のさまざまな福祉活動に役立てられています。

歳末たすけあい運動は、まだ社会福祉協議会ができていない時代から始まったものです。
時代の変化とともにかたちを変え、現在では、地域の皆さまが職場や街中、町会等さまざまな立場で「地域」に対して関心を持っていただくための募金活動だと思っております。特に、子どもたちと共に行う街頭募金は、学生のうちから社会福祉を理解していただくきっかけになるのではないでしょうか。
杉並区社会福祉協議会は地域福祉の推進役として、町会や民生委員、地域団体、企業関係者の皆さま等と一緒に地域課題解決に向けて取り組んでいます。
さまざまな寄付のかたちがある中で、歳末たすけあい運動を地域課題解決のためのひとつの方法として、これからも続けていきたいと思っております。

杉並区社会福祉協議会　会長　髙　武征